

ホーム名：グループホームステップ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境・雰囲気の中「生活の継続性」を重視し、尊厳ある自立生活を営めるように支援することを日々の業務や会議を通じて全職員と共有する事に努めています。	管理者や職員は入居者が今日まで生活してきた家庭環境から逸脱しないような、入居生活が営めるような支援をしている。管理者と職員の話し合いは、常時行われホームの理念でもある家庭環境の実現に邁進している。	グループホームとしての理念は、訪問者にも分かり易い位置に、掲示板に掲げられる事が望まれます。職員のより深い理解と啓発にも繋がるものと思われれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な保育園児の訪問による交流や同法人施設との合同行事にて多数の地域住民の方の参加を頂いています。	地域との交流の一環として夏祭りの山車の内覧や、あおぞら保育園からの20人程の園児訪問も受け入れている。法人関係の活動には住民の参加もあり、地元との一体感を目指している。	本ホームは今年で創立10年目の節目にあたり、地元との交流も積極的な係わりを持たれて頂きたい。自治会の加入も考慮されて欲しい。地元とのボランティアの協力も求められ、一層の地元のホームとしての存在を深められるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では、地域に向けた活動等は行えていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事業所の近況や活動報告を行い、推進委員からは助言や意見を頂けている。出た意見に対して、会議等を通じて職員に伝えています。	年6回の推進会議には、常時、市の職員、民生員、包括支援センターの職員が参加している。議題は茶話会や納涼大会といった事業所内行事の催しから、福祉支援の具体的な取り組みや提案などがあり、入居者のサービス向上を目指している。	推進会議では、入居者に直接係る議題を討議するようにしている。現在の定期的なメンバー以外にも、是非、入居者の家族の代表者にも参加を促され、より幅の広いサービス向上に努められたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加して頂いている市担当者を主としながら必要に応じて、福祉部高齢介護課の職員に随時、近況報告・相談を行っています。	事業所内での入居者に対する支援のあり方や、ホーム内での近況報告などで、市の意見を求めるようにしている。運営推進会議では市と緊密な関係があり、あらゆる点でアドバイスを求めやすい立場を維持している。	市町村との関係維持は、事業所が地元で発展していくには不可欠な要素である。これからも、あらゆる機会をとらえ、恒久的に緊密な関係を維持されるようお願いしたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員間で意思統一しあいながら身体拘束を行わないケアを実施しています。また、全体の勉強会も行っています。	身体拘束はしないというのが基本方針である。この認識と実践は、管理者や職員に徹底した支援のあり方として共有されている。事業所にはミトン手袋や繋ぎ服などは無い。エレベーターの利用に関しては、入居者の安全確保に必要な為、職員のみが利用できる仕組みにされている。	職員の身体拘束を禁じた認識向上のための勉強会は、高く評価したい。今後も、身体拘束のない介助支援を継続されるようお願いしたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する意識を維持する為に全職員に対して日頃から注意を促しており、お互いに意識し合える環境を目指しています。また、全体の勉強会も行っています。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在2名の入居者が制度を利用されています。面会時などに日頃の様子をお伝えする事で情報共有に努めています。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項は読み上げて説明をしています。不明点や不安な点があれば、いつでも相談頂ければと、ご家族様には伝えてあります。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しています。意見要望は主として口頭で聞くことが多く、前向きに検討・改善が行えるように取り組んでいます。</p>	<p>職員は家族の訪問時を利用して、要望を聞くようにしている。運営に関する話題は殆どされてないが、管理者や職員は可能なかぎりの聞き取りをしている。</p>	<p>家族の意見や要望は直接の会話から聞き取られている。これを利点として活用され、開かれた事業所経営の基盤とさせて頂きたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月一回の部署会議や全体職員会議で意見などを聞く場を設けています。また、日頃からも必要に応じて意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>職員の意見や要望は、ホームの部署会議や老健主催の全体職員会議で話す機会が与えられている。この議題は、幹部クラス会議にも取り上げられ検討されている。</p>	<p>管理者や職員の信頼関係は重要な要素である。これからも、この観点をもとにして職員の意見の中から、反映可能な要素の模索を続けて頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人員基準を満たすように話し合い、勤務調整を行っています。また、年に1回人事考課を行い、それを基に面談をしています。その際に個々に目標を立ててもらったり上司から助言や提案をする事で取り組んでもらっています。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人一人が、自分の目標を定め、個々の課題に意欲的に取り組みことで、能力開発を目指し、人材育成につとめている。内部研修や外部研修に積極的に参加できるようにしています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>入居者・職員の交流の場として、周辺地域のグループホームの集いに参加し、情報交換の場としても活用しています。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日頃の関わりの中で入居者の事を知るように職員全員が努力をしています。声掛けの方法や内容に工夫を深めていきたいと思っています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用相談や見学時に十分な時間をかけ、話し合いの機会を設けています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人・ご家族の状況を勘案し必要な支援を検討・実施に努めています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>料理や洗濯、掃除等、出来る事を一緒に行う事で、共同生活づくりに努めています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時には出来る限りご家族との会話を図り、日々の様子をお伝えしたり、ご家族の不安や想いを聞く事で信頼関係を築けるように努めています。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>一部の入居者は毎週、外出にて一時的に自宅で過ごす時間を設けています。</p>	<p>家族から聞かれた入居者の馴染みの場所や、馴染みの人は職員の間で共有しあっている。日常会話の中で思い出話として話しされ、入居者は楽しまれている。入居者の中には、親戚の知人に連れられて墓参りをしたり、旅行に出かける事もある。</p>	<p>入居者が今日まで築きあげた人生の思い出を大切にしていあげ、理念に謳われた生活の継続性を守ってあげられたい。今後とも、こういった心の籠った支援と努力をお願いするものである。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>テーブルや座席の配置など環境の工夫は都度行い、職員が間に入り関係が保てるようにしています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ケースとしてはほとんどありませんが、必要に応じて支援させていただきたいと考えています。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族から意向の聞き取りや、本人本位を心がけてはいますが十分ではありません。	職員は入居者が日々生活する中で一人ひとりの性格的特性を熟知した上で、その仕草や表情を汲みとるようにしている。	入居者の心理を読み採る事は、入居者に満足を与える事にも繋がる。これからも、職員間でよく話し合わせ、入居者の意向を満たされるような支援をお願いしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	最低限度の生活歴・社会的背景は記録していますが情報量は不十分です。ご本人やご家族との会話などから情報を収集しサービスに繋がるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録にて心身の状態の把握に努めている。少しの時間でも職員間での情報の共有は大切に、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を伺い、本人の現状と照らし合わせ担当職員を中心に検討し計画を立てるよう努めています。またセンター方式を取り入れ、生活の継続を図れるよう努めています。	本ホーム独特のセンター方式による綿密な観察と、その結果のデータを基に、入居者一人ひとりに合った介護計画を作成している。入居者の健康状態などの変化に対応できるよう、3ヵ月の短期目標を軸に常に、見直し可能な態勢を敷き、入居者がよりよい生活が出来るよう努めている。	事業所が行う分析的な観察データと、家族の意向を採り入れた介護計画作りには賛同したい。これからも、この方針で臨まれるよう期待していきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を参考にし介護計画の実施状況を確認し、新たな介護計画に反映しています。ただし、記録については更に介護計画に沿って記録するよう改善が必要であると感じています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の新たな意思や意向が確認できた場合は、そのニーズに対応を行っています。それに対し、気配りやアドバイスを加えていく事が課題であると考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は積極的には行えていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を利用して頂き、変化があれば随時主治医に連絡を行っています。随時、ご家族には連絡し現状・結果を報告しています。	事業所の協力医は青山病院であるが、入所以前からのかかりつけ医の受診も可能である。現在2人の入居者が、月2回のかかりつけ医の受診を利用している。事業所や家族の診察連絡は密であり、常に容態急変時の対応については迅速である。	入所以前からの主治医の受診を受け入れている方針に賛同する。場合によっては、協力医との連携が必要な事もある。これからは家族と十分な話し合いをされ、互いに理解を深めて頂きたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの医療連携により少なくとも週1回は相談をする機会を設けています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された場合、ご家族や病院のケースワーカーと連絡をとる事で、ご本人の入院中の状態把握収集に努めています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>介護用品（補助具）を導入するなどし、重度化しても当事業所で出来ることを見極め支援方法に工夫し生活できるようにする。</p>	<p>入居時に重度化した場合の説明がなされるが、家族の要望に合わせ見直しも可能である。一人身の方には、後見人と十分な話し合いが行われている。事業所はホームとして可能な限りの介助と支援をしている。看取りについては、家族の要望があれば受け入れ態勢にあるものの、容態急変時には青山病院へ搬送される場合が殆どである。</p>	<p>これからも、家族との話し合いでは、事業所が出来る終末期での介助について十分な理解をしてもらおうようお願いしたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>実践力を身に付ける為に、救急救命講習会や緊急時対応の勉強会を行っています。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回以上（日勤帯、夜間帯を想定）消防署の協力を得て防災訓練を行っています。</p>	<p>災害避難訓練は年2回実施されている。内一回は消防署の立ち会いでおこなわれている。訓練は昼夜を想定し、職員は入居者をベランダまで誘導する。そこから消防士が階下へ避難させていく。消火器やスプリンクラーの設置は元より、平素の防火対策意識には余念はない。</p>	<p>災害緊急時には予想しがたい事態の発生も懸念され、事業所はその事態についての想定も話し合わせ、一層の現実的な災害訓練へと結びつけて頂きたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々の人格を尊重した声掛けや対応を行い、プライバシーを損ねるような対応をしないよう指導しているが、丁寧さが欠けている事もある為に意識をしていきたい。</p>	<p>入居者の人格や尊厳を保持するという認識は、管理者や職員の間で定着している。日々の支援については、入居者のプライバシー確保に対する職員の自覚が、実践へ向けての努力に繋がられている。</p>	<p>日常の入居者に対する接遇や介助については、管理者の適切な指導と職員の自覚があるものと思われる。今後も一層の職員の研鑽を期待したい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者本人の自発的な意思決定が出来るような声かけや説明が出来るように指導に努めています。また、希望を実現できるように努めているが、ゆっくりと時間を作る事が出来ていません。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々のペースに合わせた支援を目指していますが、まだまだ職員主導になっている事も多々みられます。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>可能な範囲で支援しています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日によっては調理や後片付けを一緒に行う事もあるが、基本的には職員が行う事が多い。</p>	<p>入居者の食事メニューは職員同士の話し合いで決められている。その為、個人の好みに合わせ事も可能である。食材は近所のコープやスーパーから仕入れる。栄養のバランスは職員同士でよく話し合われている。時には入居者が食事の手伝いをする事もある。</p>	<p>入居者が楽しそうに食事をされていた。この和気あいあいとした楽しい時間が何時までも続くような支援をお願いするものである。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>時間を決めての提供と随時提供により水分の確保に努めています。また、一日の水分量を記録しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨きなどの口腔ケアの徹底を周知し行っています。また必要に応じて、訪問歯科医に助言を頂き実施しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を活用し個々の排泄パターンに沿った声掛けと介助への配慮を心がけています。自立に向けた支援までは出来ていません。</p>	<p>現在、自立で排泄出来る入居者がいるが、職員の見守りの原則は守られている。自立が困難な入居者には職員の介助が行われている。</p>	<p>入居者の自立排泄については、これからの事業所と職員全体の課題として位置づけ、どのような支援をすべきかを、検討されるように望まれます。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や献立内容も野菜を多く摂れるように勤めています。お一人おひとりに応じた対応を心掛けています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>現状では、回数や時間帯・曜日は決めています。今後、希望に合わせた入浴も配慮していきたいと考えます。</p>	<p>入浴は週2回は行われているが、本人が希望すれば3回も可能である。洗髪と湯の入れ替えは毎回行われる。中には、長湯が好きな入居者もいるが、十分な見守りの下で、その希望も満たされている。冬にはゆず湯を使う事もある。</p>	<p>本人が希望する時間に入浴出来る態勢を考慮中であると聞く。是非実現して頂きたい。また、入浴剤の投入も楽しいのではないだろうか。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態、ペースに沿った介助を心がけています。また基本的には自宅で使用していた寝具を持参していただいています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携を取り実施出来ている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族からの話し参考にし、希望に沿った楽しみごとを提供できるように努めています。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	面会時にご家族と外出される事は日常的にあります。希望に沿った支援はできていない現状です。	現在は特に入居者からの散歩の希望はないようであるが、週に2回程度はホームの周りを散歩している。時には近くの公園まで行く事もある。春や秋の季節には桜や紅葉も見物しに行くようにしている。	散歩や外出を希望しない入居者にも、外出の楽しさを教えてあげ、少しずつ回数を増やすようにして頂きたい。精神的な快活さにも繋がっていくものと考えられます。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には現金を持っていただき、使用していただく支援、見守りを行っています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ほとんど出来ていない状況です。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清潔感、空調管理に気をつけた環境づくりを行っています。また、季節に合わせた飾り物も入居者と一緒に作成しています。	共用空間の明るさは全体的に柔らかな感じがする。テレビは常時つけてあり、リビング全体が家庭的な雰囲気になってくる。展示されている作品も、入居者と職員と一緒に仕上げたものである。これらは共用空間に、楽しい居心地のよさを醸し出している。	入居者は1日のほとんどをこの共用空間で過ごしている。これからも職員共々、常に楽しい空間作りに邁進されるようお願いしたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員の思いで工夫を行っているが、入居者の方の気持ちに寄り添えているか考えていきたい。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを持ち込んでいただき安心して時間が過ごせるように努めています。また出来る限りご自身で行っていたように家具の配置も工夫している。	居室は職員が毎日掃除をして整理している。綺麗な居室の中には、各人の馴染みの家具が置かれ、衣類も入居者のお気に入りのものである。シーツは1週間毎、パジャマは3日毎に洗濯され、清潔さは維持されている。	願わくば、各人の居室に、もう少しそれぞれの好みの物を増やすようにされ、より生活感のある居室作りの工夫をお願いしたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに表示物等は貼っているが、一人ひとりの力を活かす所までは出来ていない。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない